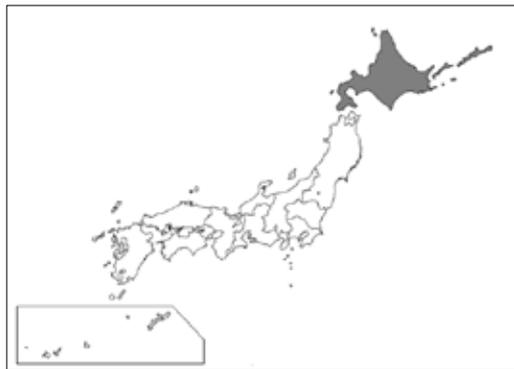


### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる。
- ・ 個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

#### 前回からの主要変更点

	前回(令和元年11月)	今回(令和2年3月)
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱い動きがみられる
鉱工業生産	弱含み	新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる
個人消費	持ち直し	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる
雇用情勢	着実に改善	改善

#### 1. 鉱工業生産等の動向

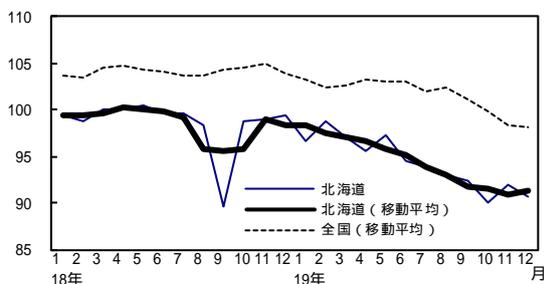
(1) 第一次産業は生乳生産、主な水産物の生産額ともに前年を上回っている。

10 - 12月期には、生乳生産は総量では1,007,990tと前年比2.8%増となった。主な水産物<sup>1</sup>の生産額(主要9港)は、するめいか等が増加したため、前年比23.1%増となった。

(2) 鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症による影響があり、一段と弱含んでいる。

10 - 12月期には、食料品は、不漁の影響等により、冷凍水産物等の生産が減少した。パルプ・紙は、減少した。電気機械は、減少した。鉄鋼は、自動車向けの特殊鋼棒鋼等の生産が減少した。化学・石油石炭製品は、減少した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の大線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
食料品	25.9	0.5	2.2	4.6	12.6	0.3
パルプ・紙	13.1	2.6	3.1	8.1	6.0	6.9
電気機械	9.1	3.3	6.5	5.8	0.5	1.0
鉄鋼	7.9	7.0	2.4	1.3	2.9	5.7
化学・石油石炭製品	7.6	11.9	0.9	7.0	2.8	4.8
鉱工業	100.0	2.8	2.4	2.6	2.2	1.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

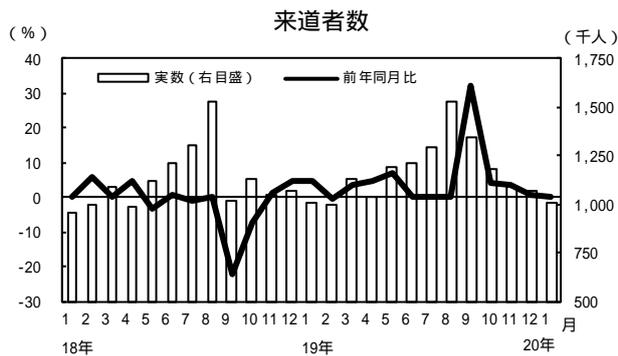
2. 10 - 12月期、12月は速報値。

<sup>1</sup>主な水産物は、するめいか、さんま、すけとうだら、たこ類、ほっけを対象魚種とする。

(1) 北海道

(3) 観光は増加している。

来道者数は、航空機の利用者増などがあり、増加した。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱含んでいる。

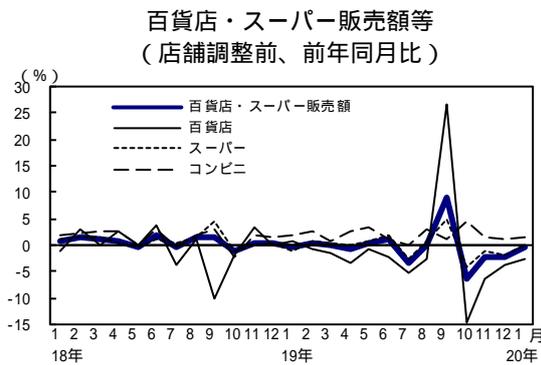
(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比7.5%減、11月は同2.2%増、12月は同0.2%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月、11月、12月のいずれも、衣料品、身の回り品、飲食料品、その他すべての品目で前年を下回った。1月は、前年を下回った。

スーパーは、10-12月期は、衣料品等が低調だったことから、前年を下回った。1月は、前年を下回った。



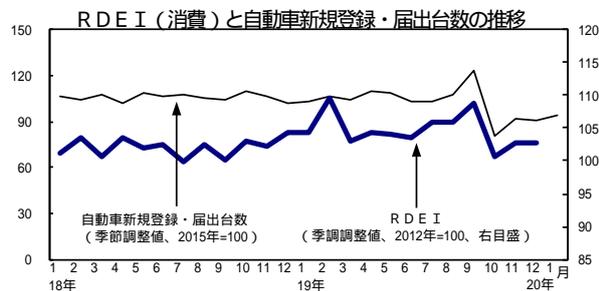
	2019年	2019年			2020年
	10-12月	10月	11月	12月	1月
RDEI (消費*1)	4.5	7.5	2.2	0.2	
百貨店・スーパー(*2)	3.4	6.2	2.2	2.3	0.5
百貨店(*2)	7.6	14.4	6.5	3.8	2.4
スーパー(*2)	2.3	4.1	1.0	1.9	0.0
コンビニ(*2)	2.5	4.7	1.7	1.0	1.4
乗用車(*3)	17.8	26.9	14.7	10.4	9.0
(季節調整値)(*3)	21.0	34.7	14.8	1.7	3.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

2020年1月は速報値。

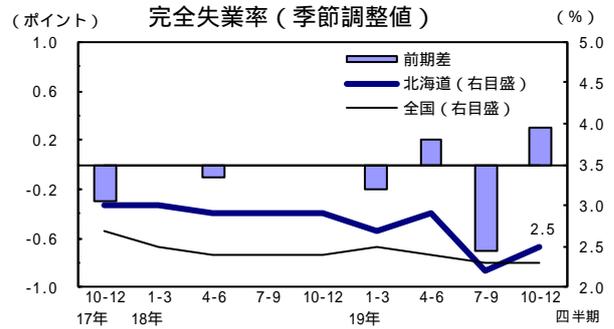
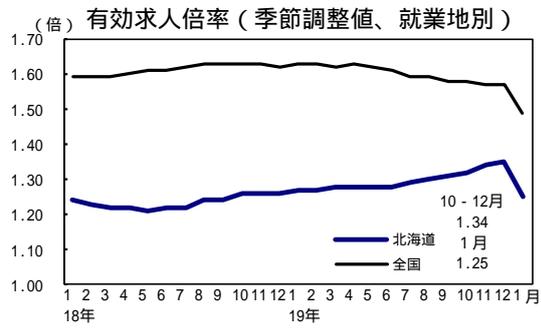
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



### 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (2020年2月調査) 景気判断理由の概要

1. 北海道

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪 )

		分野	判断	判断の理由
現状	家計動向関連		×	・新型コロナウイルスの影響により、外国人観光客が減少しているほか、観光施設や宿泊施設における国内観光客のキャンセルが増加している。2月の冬季観光シーズンを直撃しており、多大な影響が生じている(旅行代理店)。
				・新型コロナウイルスにより、中国人観光客への影響が出ている。ただ、国内客への影響はほとんどみられなかった(高級レストラン)。
				・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、北海道が緊急事態宣言を発表したこともあり、まとめ買いをする客が数多く来店し、売上も大きく伸びている。ただ、一過性の影響である可能性があり、消費自体が底上げされているわけではない(スーパー)。
	企業動向関連			・2月に入り、これまでの雪の少なさをばん回するように降雪量が増えており、例年どおりのレンタル需要が生じている(その他サービス業[建設機械レンタル])。
			×	・新型コロナウイルスの影響により、当社受注のイベントが複数中止になっている。また、冬の恒例イベントを始めとした大型催事における来場者が減少しており、観光産業、飲食業などの落ち込みも大きくなっている(広告代理店)。
雇用関連			・若干ではあるが、納入件数や短期受注案件が増加しており、見込みを上回る状況が続いている(その他非製造業[鋼材卸売])。	
			・1月までは若干の下振れ傾向にあったものの、新型コロナウイルスに対する心理的な脅威と不安により、企業における求人控えや様子見の状況に拍車がかかってきている(求人情報誌製作会社)。	
	その他の特徴コメント		・募集人数や求人条件などの精査で更新求人数が減少したこと、大口求人の提出時期の遅れがあったことなどから、新規求人数が減少しているほか、有効求人数も減少している。ただ、人手不足の状況は変わらないことから、景気は変わっていない(職業安定所)。 ：新型コロナウイルスの影響が徐々に始まっている。皆が不要な外出を避けたいと考えており、消費が冷え込んでいる(美容室) ×：新型コロナウイルス感染者の拡大に伴い、来客数、買上客数など、全ての指標において大きな打撃を受けている(百貨店)。	
先行き	家計動向関連		×	・今後については、新型コロナウイルスの影響が大きくなることで、株価の下落につながり、経済の停滞に陥る可能性が高い(タクシー運転手)。
				・新型コロナウイルスの影響により、期待していた冬のイベントにおける春節の効果が薄れ、来場者が前年よりも落ち込んでいる。今後については、終息を待つしかない状況ではあるが、施設内のウイルス対策など、できることはしっかりと行っていきたい(観光名所)。
	企業動向関連			・鋼材、建材類の荷動きが良くなる要素が見えないため、今後の景気はやや悪くなる。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響が輸出入貨物の動きにも出てくるのが懸念される(輸送業)。
			×	・新型コロナウイルスの影響で取引先において売場を縮小する動きが出ているため、今後の景気はやや悪くなる(食料品製造業)。
	雇用関連			・新型コロナウイルスの影響がこのまま長引くようであれば、ホテル、旅行業だけではなく、流通業にも業績の下押し圧力が掛かることになり、経営者がちゅうちょ、様子見といった心理的な思考に陥ることが懸念される。経営者の動きが鈍ると、人材の需要を手控えたり、経費削減に踏み切ることが考えられ、全体の景気に陰りが出ることになる(人材派遣会社)。
その他の特徴コメント			×：新型コロナウイルスの拡大がまだ続くと思込まれるため、今後の景気は悪くなる(コンビニ)。 ×：新型コロナウイルスの影響で先行きが見えないため、今後の景気がますます悪くなることを危惧している(家電量販店)。	

(DI) 現状・先行き判断DI(北海道)の推移(季節調整値)

